

幼児教育学科「保育内容と指導法の総合演習」

—「こどもまつり」の考察（１）—

The department of early childhood education "Integrated practice of the childcare content and the teaching method"

—The consideration of Children's Festival (1)—

本多 峰和 Miwa Honda

（愛知学泉短期大学幼児教育学科）

谷村 和秀 Kazuhide Tanimura

（愛知学泉短期大学幼児教育学科）

抄 録

愛知学泉短期大学幼児教育学科は「こどもまつり」という行事が毎年開催されており、2018年度で40回目を迎える。この行事は学生主体で取り組む行事であり、「保育内容と指導法の総合演習」の科目として位置づけられている。2018年度より、「幼稚園教育要領」の改訂、「保育所保育指針」の改定、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂され、いずれも幼児期に育みたい資質・能力が記されている。その一つである「知識及び技能の基礎」の内容がこどもまつりを行うための総合的な体験にも通ずるとし、こどもまつりを通して保育実践力がどのように育まれているのかを探ることを目的とした。結果、こどもまつりを行うことで保育実践力を育む豊かな体験が育まれているのではないかと思われた。今後の課題として、学生にアンケート調査をし、保育実践力がどのように育まれているのかを具体的に探ることが必要であると考えられた。

キーワード

保育実践力 Childcare practical skills 保育者養成 Childcare person cultivation

目 次

- 1 はじめに
- 2 本学幼児教育学科の概要
- 3 「保育内容と指導法の総合演習（こどもまつり）」
- 4 考察

1 はじめに

筆者たちが所属する愛知学泉短期大学幼児教育学科には、1979（昭和54）年から毎年「こどもまつり」という行事が行われている。これは学舎に多くの子どもたちを迎え入れ様々な催事を行う行事である。1979（昭和54）年12月16日に第1回が開催され、2018（平成30）年10月13日には40回目を迎える。

第1回の1979（昭和54）年から第28回の2006（平成18）年までは当時幼児教育学科が設置されていた愛知県安城市の桜井学舎で開催されていた。2007（平成19）年、学舎が愛知県岡崎市舩越町の岡崎キャンパスに移転したため以後岡崎キャンパス内で開催している。

1.1 「こどもまつり」とは

「こどもまつり」は、一部の学生から“こどものた

めの祭を開催したい”との要望に応じたものである。それまでは、岡崎キャンパスに設置されていた生活科、服飾科の他学科とともに「学泉祭(大学祭)」を行っていた。「こどもまつり」は幼児教育学科の学生会が中心となり、自主的活動として始まったものである。

1.2 授業としての「こどもまつり」

1991(平成3)年度に、カリキュラム改定により必修科目「保育内容の研究Ⅷ(こどもまつり)」の授業としての位置づけがされた。これ以降、学生の自主的な活動であるとともに、卒業要件に関わる必修科目でもあるという授業となった。そして、2001(平成13)年度に「保育内容と指導法の総合演習(こどもまつりⅠ・Ⅱ)」と教科名を変更した。

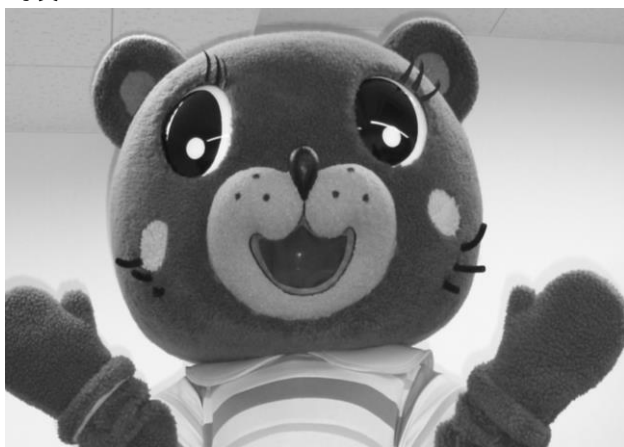
1.3 「こどもまつり」開催日と来場者数

愛知県安城市の桜井学舎で開催されていた「こどもまつり」は、11月3日(祝:文化の日)に固定されていた。また、来場者が2000人を超える年度もあり、地域に根差した活動として「こどもまつり」が定着していたことがうかがえる。2007(平成19)年度、幼児教育学科が愛知県岡崎市舳越町の岡崎キャンパスに移転して以来、開催時期は愛知学泉大学の学生会及び学泉祭実行委員会と調整を行い「学泉祭」の1日目と同日に開催している。当初の来場者数は、桜井学舎で開催されていた際に比べ減少したが、近年は地域の方へも徐々に知られるようになり、2000人近い来場者が訪れている。

1.4 「こどもまつり」マスコットとテーマソング

「こどもまつり」には「ガっくん(写真1)」というマスコットがいる。いつから採用されたかは記載されているものはないが、現在もこどもまつりのマスコットとして親しまれている。

写真1



テーマソングは2006(平成18)年の第28回までは「毎年、学生たちの手によってオリジナルの曲を作っている。歌詞は1,2年生に公募される。その後K教員のゼミ生が作曲をする(石川・野々山,2006,p.71)。」とあるが、現在は図1に示した曲が「こどもまつり テーマソング」として定着している。

図1

♪こどもまつり テーマソング



1.5 「こどもまつり」の目的と位置づけ

石川・野々山は、「保育者を目指す学生にとって、何よりも求められるのは保育を実践していく力である」と述べている。そして「『こどもまつり』を柱に、他の教科の成果を織り込みながら、企画立案から準備計画、実施、反省を経て、実践力を修得する内容」とし、「社会全体の課題を視野に入れた保育観の形成と、実際の保育の企画・立案・準備・運営の体験学習」を目的としている。また、こどもまつりの位置づけとして、学生一人ひとりの指導力を育む取り組みにより、「これからの保育観を学生自身が探る体験」を行う場としている(石川・野々山,2006,p.63)。

1.6 本稿の目的

2018年度より、「幼稚園教育要領」の改訂、「保育所保育指針」の改定、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂された。

「幼稚園教育要領」第1章総則 第2、「保育所保育指針」第1章総則 4、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」第1章総則 第1節 3、には幼児期に育みたい資質・能力、が記載されている。

・幼児期に育みたい資質・能力

(1)豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、

分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

(2)気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」

(3)心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

上記、(1)「知識及び技能の基礎」における内容から〈豊かな体験〉〈感じる〉〈気付く〉〈分かる〉〈できる〉はこどもまつりを行うための企画立案、準備、実施など総合的な体験にも通ずるのではないかと思われた。石川・野々山は、保育を実践していく力が重要であり、日々の授業で学んだ基礎を応用し、現場で活用していく力が不可欠である。その意で実習は、実践力育成の貴重な場であるとし、学内において、こどもまつりは実践の場として大切な位置を占めているとしている(石川・野々山,2006,p.63)。延べ 2000 人弱が訪れるこどもまつりの準備作業、当日に向けての子どもたちや保護者への思い、そして子どもの発達状況における配慮など、思考を巡らすことは保育実践力につながるであろう。上山・杉村は、保育実践力を「保育に関する知識やスキルを実践の中で活用する力(上山・杉村,2015,p.402)」と定義している。これらを踏まえ〈豊かな体験〉〈感じる〉〈気付く〉〈分かる〉〈できる〉をキーワードに、こどもまつりを通して保育実践力がどのように育まれているのかを探ることを目的とする。

2 本学幼児教育学科の概要

本学幼児教育学科は、2 年過程であり、保育所を含む児童福祉施設で保育者として働くための保育士資格と、幼稚園で教諭として勤務するための 2 種免許が取得できる。また、2015 (平成 27) 年度からはレクリエーション・インストラクターの資格が取得できる。実際の入学者は増減があるが、現在(2018 年)の定員は 1 学年 120 名である。

保育士資格と幼稚園教諭免許状(2 種)を取得するために、2018 (平成 30) 年度入学生の場合は、卒業要件である 62 単位だけではなく、必修 32 単位、教育実習、保育実習などの学外実習を含めて、計 90 単位が必要となる。

幼稚園や認定こども園で行う教育実習は、1 年次の 6 月に 1 週間、2 年次の 9 月～10 月に 3 週間である。保育所や認定こども園で行う保育実習は、1 年次 1 月、2 年次 6 月にそれぞれ 2 週間行う。児童養

護施設や障害児入所施設などの福祉施設で行う施設実習は 10 日間である。学外実習が合計 2 か月以上あることにより、土曜日に授業を開講している。保育士資格と幼稚園教諭免許状(2 種)を取得するため、一般の短期大学生と比べると、多忙な学科であると思われる。

3 「保育内容と指導法の総合演習(こどもまつり)」

「保育内容と指導法の総合演習(こどもまつり)」は、1 年次、2 年次の縦割りクラスで行い 1・2 年が協働しながら取り組むよう設定されている。この科目は 4 月から 11 月上旬まで、1 年次「保育内容と指導法の総合演習Ⅰ(こどもまつりⅠ)」、2 年次「保育内容と指導法の総合演習Ⅱ(こどもまつりⅡ)」の卒業必修科目としてそれぞれ 1 単位の演習として開講されている。担当教員は主務者 1 名、副主務者 2 名の 3 名である。その他数名の助手・研究補助員で担当している。企画などの指導には全教員の力も借りて幼児教育学科を挙げて取り組んでいる。

3.1 2018 年度の「保育内容と指導法の総合演習Ⅰ(こどもまつりⅠ)」シラバス内容

―科目の概要

「こどもまつり」は、前期から計画を立て、準備し、秋に地域の子どもたちを本学キャンパスへ招いて、保育の実践を行なう活動である。保育内容と指導法の総合演習Ⅱ(こどもまつりⅡ)を履修している 2 年生とともに取り組む。幼児教育を目指す学生にとって、何よりも求められるのは保育を実践していく力である。実習もその貴重な経験だが、「こどもまつり」は社会全体の課題を視野に入れた保育観の形成と、実際の保育の企画・立案・準備・運営のすべてに至る経験的な学びを修得することを目的としている。

―到達目標

- ・行事の準備・実施・評価のプロセスが理解できる。
- ・主体的に企画・立案に参加できる。
- ・協力しあいながら企画の準備を進めることができる。
- ・地域の方々に対して心のこもったかわりができる。
- ・振り返りを通して、来年度に向けての課題が発見できる。

目的、到達目標を設定した意図は次の 3 つである。1 つ目は、学生が保育現場で運動会や生活発表会などの行事を企画・運営する際、行事の流れや留意点を考えることができる。2 つ目は、保育者同士にお

けるチームワークの意味や大切さを理解することができる。3 つ目は、1 年次のこどもまつりでの関わりを振り返ることで2年次のこどもまつりに活かすことができる。

様々な教科との関連を持たせながら実践に向けどのように行うのかを2年と協力し合いながらこどもまつりを準備・実施する。そして、学生一人ひとりの気づきや反省点などの評価を行い、2年次のこどもまつりや学外実習などに活かせる保育実践力の素地を養う。

3.2 2018 年度の「保育内容と指導法の総合演習Ⅱ（こどもまつりⅡ）」シラバス内容

一科目の概要

1 年生で関わった「こどもまつり」を、Ⅱでは、組織の中心となって、企画立案、準備計画の作成と実施を行う。また、保育実践のまとめとして、保育内容と照らし合わせながら取り組むことによって、これからの保育観を個々の学生が探るプロセスとしても位置づける。

一到達目標

- ・保育者同士の指導方法が理解できる
- ・リーダーシップを発揮して、企画・立案に参加できる。
- ・グループメンバーの調整を図りながら、企画の準備を進めることができる。
- ・地域の方々に対して心のこもったかわりが主体的にできる。
- ・振り返りを通して、理想の保育者に向けての課題が見える。

目的、到達目標を設定した意図は次の3つである。1 つ目は、2 年が教育実習、保育実習で培った現場力や授業で養われた様々な指導方法や留意点を1年が理解することができる。2 つ目は一人ひとりがリーダーとして必要な要素を身につけることができる。3 つ目は各自の保育者としての資質を理解することができる。

様々な教科との関連をどのように活かすべきかを昨年のこどもまつり及び学外実習の経験を踏まえながら考え、1 年と協力し合いながらこどもまつりを準備・実施する。そして、学生一人ひとりの気づきや反省など評価を行い、今後の保育実践力の素地を養う。

3.3 「保育内容と指導法の総合演習（こどもまつり）」の基本的な流れ

基本的なこどもまつりの流れを以下に示す。

3.3.1 総務委員の募集から授業開始まで

こどもまつりは前年度の11月から2月にかけて、新年度のこどもまつりに向け委員会が総務委員と教員（主務者1名、副主務者2名）で行われる。

総務委員は、開催された年のこどもまつり終了後1ヶ月以内に1年から立候補で9名募集する。すでに総務委員を経験した1年も数名立候補する場合もある。立候補した9名の総務委員から、実行委員長1名及び2名の副実行委員長が選出される。

その後、前年度のこどもまつり総務委員との引継ぎが行われる。そこでは、役割の仕事内容や改善点などが話し合われる。

そして、実行委員長、副実行委員長で構成される委員会（二役会）と新総務委員の打ち合わせが行われる。そこでは、教員（主務者1名、副主務者2名）が実行委員長及び副実行委員長を含める総務委員に対し、総務委員会の進め方、スケジュールの説明、そして学生が主体的に進めていく旨を伝える。

3.3.2 4月から7月

4月には、新入生、在学生に向けたこどもまつりの説明準備から総務委員（2年）の活動は始まる。その後、各クラスの係を決定する。1年についてはA、B、C、各クラス2名ずつクラスの係とは別に総務委員を選出する。そして1年6名2年9名による15名体制の総務委員会が発足される。

こどもまつりでは毎回テーマを決め、そのテーマに沿った催しを考え開催している。そのテーマを1年2年の縦割り3クラスでそれぞれ考え、その後全学生による投票によりその回のテーマが決定される。さらに決定されたテーマに基づき、縦割り各クラスのテーマを決める。さらに、こどもまつりは毎回オリジナルのパンフレットを作成しており、この時期にこどもまつりのパンフレットに使用するイラストを学生から募る。

その後、テーマに基づいた企画、立案をし、準備に取り掛かる。6月中旬に1年は1週間の教育実習Ⅰ、2年生は2週間の保育実習Ⅱが行われ、こどもまつりの準備は2週間中断となる。

7月中旬には、各クラスが考えた企画の導入のリハーサルを行う。クラス企画の導入とは、各クラス企画が設定したテーマのイメージに沿った手遊びやペープサートなどである。これはそれぞれのクラス企画が考えたメイン企画に期待感を持ってもらうための演出と考えられている。このリハーサルでは、

それぞれの企画を担当するグループが、総務委員、他クラスの学生、幼児教育学科の教員を子どもに見立てて行い改善する。

3.3.3 9月からこどもまつり前日まで

9月は2週目から2年が3週間の教育実習Ⅱを行うため、1・2年が打ち合わせを行い、2年不在の期間に準備する内容を確認する。そして、2年の実習期間、1年のみで準備を行う。

10月、2年生が教育実習Ⅱ終了後、1・2年で進行状況を確認し再び1・2年合同での準備に取り掛かる。そして、こどもまつり1週間前からは特別スケジュール期間となる。授業の空きコマは、すべてこどもまつりの準備となる。特別な事情がない限り9時15分から18時5分まで大学で作業を行う。こどもまつり前日までにそれぞれの企画で、当日と同様にリハーサルを行う。このリハーサルを通し、当日に向けての改善を行う。

こどもまつりの前日は、前日準備となり幼児教育学科の授業はすべて休講となる。

3.3.4 こどもまつり当日

こどもまつり開催時刻は10時～15時である。総務委員は7時30分に集合し、当日の打合せを行う。他学生は9時30分から最終確認を行い、10時前に各自、配置に就き、子どもたちを受け入れる態勢を整える。学生たちは来場者の安全確認など、子どもたちが楽しんで過ごせるよう一人ひとりが自覚をもって臨む。

3.3.5 こどもまつり終了後

こどもまつり終了後の授業として、企画や係り別に継続点や改善点などの振り返りを行う。2016（平成28）年度、2017（平成29）年度の最後の授業では、本学が行っている社会人基礎力グランプリの予選を兼ねて、幼児教育学科の在校生と全教員に向け、各クラス、こどもまつりの代表者6名による振り返りを発表形式で実施した。2018（平成30）年度も同様に行う予定である。

3.4 現在の組織と役割

こどもまつりは授業ではあるが、基本的には学生自身による組織で構成（表.1）されており、企画、準備、運営を実施している。組織の頂点にあるのは総務委員会である。総務委員の構成は、実行委員長、副実行委員長A、副実行委員長B、行事A、行事B、行事C、広報A、広報B、予算である。そして行事

Bのもと、クラス全体主任、クラス全体副主任、クラス企画主任、クラス企画副主任、表現主任、表現副主任となっている。さらに、記録係、整理清掃係、保健・案内係、オレンジリボン係、受付係、アーチ係、放送係、PR係、休憩スペース係、企画予算担当者（クラス全体主任）、駐車場係で構成されている。

3.4.1 総務委員

総務委員は2年生9名、1年生6名である。

表.1に委員名、人数、役割を示す。

表.1

委員名	役割
実行委員長 (2年1名)	統括、渉外、学生会や学泉祭実行委員会との調整
副実行委員長A (2年1名)	行事のまとめ、記録係主任、セレモニー担当〈オープニング・エンディング等〉
副実行委員長B (2年1名)	広報・予算まとめ、駐車場係主任、報告書作成
行事A (2年1名)	整理清掃係主任、保健・案内係主任〈オムツ交換室・授乳室含む〉
行事A (1年1名)	2年生の補佐、報告書作成
行事B (2年1名)	クラス企画まとめ、オレンジリボン係主任
行事B (1年1名)	2年生の補佐、記録係の補助、報告書作成
行事C (2年1名)	受付係〈スタンプラリー含む〉
行事C (1年1名)	2年生の補佐、報告書作成
広報A (2年1名)	PR担当〈パンフレット等〉アーチ係、放送係主任
広報A (1年1名)	2年生の補佐、報告書作成
広報B (2年1名)	PR担当、ガッツンとおどろろ！、PR係主任、休憩スペース係主任
広報B (1年1名)	2年生の補佐、報告書作成
予算 (2年1名)	予算担当〈作成・執行・決算管理〉、備品調査
予算 (1年1名)	2年生の補佐、駐車場係の補助、報告者作成

3.4.2 クラス単位での係

本学幼児教育学科のクラス分けはA、B、Cの3クラスである（1学年定員120名〈2018年現在〉）。

こどもまつりは、1年、2年全員をA、B、Cの縦割りクラスで分け、総務委員も含め全員が所属している。これは先に述べた「2年が教育実習、保育実習で培った現場力や授業で養われた様々な指導方法や留意点を1年が理解することができる。」という目標の環境設定でもある。

表.2にクラス単位での係名、人数、役割を示す。

表. 2

係名	役割
総務委員 (2年 9名) (1年:各クラス2名)	毎授業内で総務委員会を開き、運営が円滑に行えるようにする。クラス企画、表現企画の準備状況を報告する。
クラス全体主任 (各クラス1名:2年)	クラスのすべての企画の総括をする。クラス全体の状況を把握し、実行委員会で報告し総務委員と連携を取る。
クラス全体副主任 (各クラス1名:1年)	クラスのすべての企画の総括をする。クラス全体の状況を把握し、実行委員会で報告し総務委員と連携を取る。
クラス企画主任	必ず主任、副主任の2人で状況を把握し、クラス遊び企画の総括をする。進行状況などを全体主任に報告する。
クラス企画副主任	必ず主任、副主任の2人で状況を把握し、クラス遊び企画の総括をする。進行状況などを全体主任に報告する。
表現主任	必ず主任、副主任の2人で状況を把握し、表現企画の総括をする。進行状況などを全体主任に報告する。
表現副主任	必ず主任、副主任の2人で状況を把握し、表現企画の総括をする。進行状況などを全体主任に報告する。
記録係: 準備段階 各クラス2名	当日を写真やビデオで記録する。エンディングセレモニーのPC制作。写真販売等の手伝い。
整理清掃係 各クラス2名	制作物の整理整頓をチェック。作業で生じたゴミの整理。当日のゴミ箱設置と撤去。前日・当日の館内清掃と終了後の片づけのリーダー。
保健・案内係 各クラス4名	雨天対策(傘袋・雑巾)、インフルエンザ対策(消毒液・石鹸・マスク)の設置。オムツ交換室の計画、前日の設置。授乳室の計画、前日の設置。当日のオムツ交換室・授乳室の責任者。
オレンジリボン係 各クラス3名	オレンジリボン運動の計画を立て、準備を行う。
受付係 各クラス4名	スタンプラリーのカードや当日の子どもたちへのプレゼントの計画を立て、準備する。受付会場の準備を行う。当日の入場者数記録、パンフレット、スタンプカードの配布、ベビーカーの誘導、プレゼント受け渡し等を担当する。
アーチ係 各クラス2名	アーチ制作の計画とデザインを考える。アーチ制作、組み立て、セッティングの責任者。
放送係 各クラス2名	前日の館内放送の機材の準備。前日のリハーサル、当日ともに館内放送を担当。
PR係 各クラス2名	事前PRの企画検討・実施。案内状、パンフレット、ポスターの作成・配布の計画。配布作業、PR活動を行う。
休憩スペース係 各クラス2名	休憩スペースの計画と前日の設置。当日は休憩スペースの責任者。
企画予算担当者(クラス全体主任)	実施計画案(予算の概要)をもとに、予算を決定する。予算の執行(伺書作成、残額の管理)を行う。
駐車場係 各クラス5名	駐車場の計画、設営。当日は駐車場で誘導などを行う。

3.4.3 クラスの企画及び表現企画

2016年度には学生から企画をクラス企画と表現企画の2つに分けて行うことが提案された。そして2016年度からクラス企画と表現企画の2つの企画が並行して行われるようになった。以下学生が考え

たクラス企画・表現企画の内容を示す。

〈クラス企画とは〉

各クラス、「蹴る・投げる・バランス・ころがす・くぐる・積む・めくる・とぶ・わたる・すべる・釣る・探す」という12の遊びの動きの中から各クラス4つずつ選び、おもちゃを考え制作する。できあがったものは教室内で組み合わせ、遊びの世界を作る。入り口では手遊びなどの導入を取り入れ、子どもが楽しめる雰囲気をつくる。

〈表現企画とは〉

《おはなし》、《造形》、《体育》の分野に音楽要素を取り入れた企画を加える。そして学生が授業で学んだ知識や技術、制作した保育教材を十分に活かして子どもたちの前で実演する。学生全員で企画を考え、将来保育現場で活かすことのできる力の習得と、子どもたちに心も身体もめいっばい楽しんでもらえるようにすることを目的とする。

《おはなし》

パネルシアター、ペープサート、エプロンシアター、パペット劇、大型絵本、紙芝居など授業でつくった保育教材や大学にある教材を活かす。物語を考えたり、すでにある物語にアレンジを加えたりしながら、各クラスのおはなし係が企画を2つずつ考える。

《造形》

年齢を問わず簡単に楽しめるものづくり教室の内容を考える。廃材を利用し、効率よく制作できるものにする。当日はクラスで時間を決め、時間内であれば子どもたちがいつでも自由に来られるようにする。

《体育》

幼児体育で習得した身体を動かす遊びや集団遊びを工夫し、子どもたちと安全に遊ぶ企画を考える。こどもまつりのテーマソングを企画内で子どもたちと踊る。

《おはなし係り・造形係り・体育係り》

・おはなし係り

リーダーを中心に子どもが楽しめる言語表現活動の内容を考え、当日子どもの前で実演する。A,B,Cクラスのおはなし係りが同じ教室に集まり、制作、練習をする。各クラスの内容が重ならないよう調節し、環境構成も考える。

・造形係り

リーダーを中心に子どもが楽しめる造形表現活動の内容を考え、当日は子どもたちに向けたものづ

くり教室を開く。A,B,C クラスの造形係りが同じ教室に集まり、試作、模擬練習をする。各クラスの内容が被らないよう調節し、環境構成も考える。

・体育係り

リーダーを中心に子どもが楽しめる幼児体育、音楽表現活動の内容を考え、当日子どもたちと企画内容を通して触れ合う。A,B,C クラスの体育係りが同じ教室に集まり、企画を考え、練習をする。こどもまつりのテーマソングを企画内で取り入れる。各クラスの内容が被らないよう調節し、環境構成も考える。

3.4.4 当日の身だしなみ

将来保育者となる自覚を促すため、来場者の方が好感を持てるよう身だしなみを各自が意識することを義務づけている。頭髮の色の基準や子どもに配慮した爪の長さなど総務委員でどのように統一をするかを話し合う。その検査を行うのは実行委員長、副実行委員長である。教員は判断に困った場合にのみ指導を行う。おしゃれを楽しみたい学生にとっては腑に落ちない場合もあるようだが、当日は気持ちの良い身だしなみで来場者の方を迎える。

以上が基本的なこどもまつりの流れである。

4 考察

本稿は、幼児期に育みたい資質・能力の「知識及び技能の基礎」における内容から〈豊かな体験〉〈感じる〉〈気付く〉〈分かる〉〈できる〉はこどもまつりを行うための企画立案、準備、実施など総合的な体験にも通ずるのではないかとした。そして〈豊かな体験〉〈感じる〉〈気付く〉〈分かる〉〈できる〉の 5 つをキーワードにこどもまつりを通して保育実践力がどのように育まれているのかを探ることを目的とした。

こどもまつりにおいてテーマに基づいた企画、立案、準備作業を学生が主体となり行う。それは異学年での共同作業となり、後の職場での人間関係においても役立つものではないだろうか。また、こどもまつり当日は、日ごろ使用している教室や廊下、エレベーターを、壁面装飾などでテーマパークのように変化させ子どもたちを迎え入れる。ここでは実習で感じることに子どもたちの姿や、子どもとの関わり、そして保護者と子どもの関り方など、学生一人ひとりが何かを〈感じ〉、〈気付く〉のではないだろうか。そして自分は何を身につけるべきか、何

が足りないのかが〈分かり〉努力するきっかけにもなりうるのではと思われる。そして、自分たちが考え努力し、準備したものが子どもたちや保護者に受け入れられる。さらにテーマに基づいた企画を行ったことの達成感〈できる・できた〉が得られるのではないか。それは多くの学生がこどもまつり閉会後に涙し、「やればできる」「やってよかった」という声とともに満足感に満ちた学生の姿があるからである。また、異学年同士のねぎらいの言葉も聞かれる。そして、幼児教育学科としてこどもまつりの振り返りを発表形式で行うことで〈気づき〉や〈分かる〉ことが明確になるのではないかとと思われる。

これはこどもまつりを行うことで保育実践力を育む〈豊かな体験〉と言えるのではないだろうか。上山・杉村(2015)が保育実践力として定義している「保育に関する知識やスキルを実践の中で活用する力」をこどもまつりで育てているのであろう。今後は学生にアンケート調査をし、保育実践力がどのように育まれているのかを具体的に探ることが課題であると考ええる。

引用・参考文献

- 『幼稚園教育要領解説』(2018) 文部科学省, フレーベル館, p.50
- 『保育所保育指針解説』(2018) 厚生労働省編, フレーベル館, p.60
- 『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』(2018) 内閣府・文部科学省・厚生労働省, p.48
- 石川博章・野々山香織(2006)「実践報告: 幼児教育学科における『保育内容と指導法の総合演習』―こどもまつりを通した保育実践力の育成―その1」愛知学泉大学・短期大学紀要(41) pp.61-71
- 上山瑠津子・杉村伸一郎(2015)「保育者による実践力の認知と保育経験および省察との関連」『教育心理学研究』63巻 pp.401-411

(原稿受理年月日 2018 年 10 月 11 日)